

「生活支援拠点型商店街事業」実施状況

生活支援拠点型商店街事業	事業ねらい	急速な高齢化が進展する中、商店街を区民が住み慣れた地域で継続して生活できるための拠点として位置づけ、いく。	
	事業内容	1 区民生活を支える機能の充実を図ろうとする商店街を生活支援拠点商店街として位置づけ、活性化に向けた計画に基づき、まちのステーションの整備への支援や、商店街の機能の充実にに向けた事業などへの支援を行う	
	商店街名	20年度	21年度
	1 豪徳寺商店街 (事業開始 H20～)	○商店街振興プランの策定 ・生活支援拠点型商店街実現に向けたプランを策定するための検討会を開催。(8回/年) ・アンケート調査等を実施し、商店街の問題点、課題等を抽出。商店街のコンセプトや目指す方向性、今後取り組む事業の内容を検討した。	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 ①取り組む事業についての推進委員会を開催(8回/年) ②「豪徳寺沖縄まつり」リニューアル →既存のイベントを来街者、地域の方のニーズに合わせた形にリニューアル街への滞留時間が増え、イベントの盛り上がりにつながった。また、地域の込みイベントを運営することで、事業実施体制の強化につながった。 ③「豪徳寺マップ」作成 →「地域住民向けの生活便利帳」をキーワードに商店街マップを作成。各店街のPRの他、商店街の利便性の向上につながった。 ④「お休み処」リニューアルについての検討 →「豪徳寺お休み処」を来街者、地域の方の利便性の向上を図るため、に向けたリニューアル案を検討した。
	2 東深沢商店街 (事業開始 H20～)	○商店街振興プランの策定 ・生活支援拠点型商店街実現に向けたプランを策定するための検討会を開催。(8回/年) ・アンケート調査等を実施し、商店街の問題点、課題等を抽出。商店街のコンセプトや目指す方向性、今後取り組む事業の内容を検討した。	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 ①取り組む事業についての推進委員会を開催(8回/年) ②イベントリニューアル →世田谷文化財団との連携により、まちかどコンサートを実施しオープン行うことで、呑川緑道からの回遊性を高め、店街のPRにつながった。地域の会・PTA等)等の連携が図れ、今後地域の方とともに活性化に向けて下地ができた。 ③エーダンブランド作成 →地域資源を活用して制作した「さくらロール(試作品)」を商店街イベント200個限定が即完売となり、地域ブランドのひとつとして今後発展させるなった。 ④商店街事務所の活用方法検討 →地域の拠点としての商店街事務所の活用方法について検討、準備を
	3 赤堤商店街 (事業開始 H21～)		○商店街振興プランの策定 ・生活支援拠点型商店街実現に向けたプランを策定するための検討会を回/年) ・アンケート調査等を実施し、商店街の問題点、課題等を抽出。商店街のや目指す方向性、今後取り組む事業の内容を検討した。
	4 山下商店街 (事業開始H22～)		
	5 祖師谷昇進会商店街 (事業開始 H22～)		

区民の生活を支える機能(身近な買い物の場、「憩い・くつろぎ・にぎわいの場」など)を持つことができるよう、商店街などに対して支援して

画を策定する際にアドバイザーを派遣して支援する。

	22年度	23年度以降
アル。商店 団体も巻き 個店、商 次年度実施	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 ①取り組む事業についての推進委員会を開催 ②「豪徳寺沖縄まつり」リニューアル →昨年の課題、反省点を整理し、より沖縄らしく楽しんでもらえるような仕組みを展開。イベントゾーンを3つに分け、回遊性を持たせたエリアに展開し、商店街キャラクター「たまにゃん」を登場させ活性化につなげた。商店街への滞留時間が増え、イベントの盛り上がりにつながった。また、地域の団体も巻き込みイベントを運営することで、事業実施体制の更なる強化につながった。 ③「まちあるきマップ」作成 →地域全体の魅力を発信し、来街者に豪徳寺を楽しんでもらうことを目的とし作成。各個店、商店街のPRの他、商店街の利便性の向上につながった。 ④「お休み処」リニューアル →「豪徳寺お休み処」を来街者、地域の方の利便性の向上を図るため、「まちあるきマップ」など情報発信機能を持ったリニューアルを実施した。	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 公社重点支援 終了
カフェ等を 団体(おや 取り組む にて発表。 きっかけと なった。	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 ①取り組む事業についての推進委員会を開催 ②街路灯をリニューアル →地域と一緒に、色やデザイン、明るさなどを検討。まちかどコンサートと同日に点灯式を実施。地域住民の参画がさらに進み、また、安全・安心・環境に配慮した商店街として、広く周知することができた。 ③地域ブランドと商店街事務所の活用方法検討 →地域ブランド及び地域の拠点としての商店街事務所の活用方法について検討、23年度へ向けた事業計画をたて、国(経産省)に申請し、地域商店街活性化法の認定を受けた。	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 公社重点支援 終了
開催。(9 コンセプト	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 ①取り組む事業についての推進委員会を開催 ②イベントリニューアル →地元スーパーと初連携し、イベントを開催。今後も協働してともに活性化に向けて取り組む下地ができた。 ③安全・安心に向けた取り組み →商店街全体の事業として、取り組んだ。「安全・安心マップの作成、パトロールの実施、AEDの設置、「こどもを守ろう110番」店舗への加盟」商店街が安全・安心に買い物ができる場所として認知され、組合員協力と連携が図られた。 ④商店街インフラの整備 →商店街フラッグを掲示し、統一感を生み出した。	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 年度終了時に事業報告 公社重点支援 ~23年度
	○商店街振興プランの策定 ・生活支援拠点型商店街実現に向けたプランを策定するための検討会を開催。 ・アンケート調査等を実施し、商店街の問題点、課題等を抽出。商店街のコンセプトや目指す方向性、今後取り組む事業の内容を検討した。	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 年度終了時に事業報告 公社重点支援 ~23・24年度
	○商店街振興プランの策定 ・生活支援拠点型商店街実現に向けたプランを策定するための検討会を開催。 ・アンケート調査等を実施し、商店街の問題点、課題等を抽出。商店街のコンセプトや目指す方向性、今後取り組む事業の内容を検討した。	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 年度終了時に事業報告 公社重点支援 ~23・24年度

「地域街づくりと協働した商店街振興事業」 実施状況

地域街づくりと協働した商店街振興事業	事業ねらい	商店街で質の高い商品やサービスを購入することができ、街のにぎわい、憩いの場としても機能できるよう、地域の役	
	事業内容	長期的な計画による振興の取組みを進めようとする商店街に対し、ソフト、ハードの両面から商店街のプランづくりの	
	商店街名	20年度	21年度
	1 用賀商店街 (事業開始 H20～)	○商店街振興プランの策定 ・地域まちづくりと協働した商店街実現に向けたプランを策定するための検討会を開催。(9回/年) ・アンケート調査等を実施し、商店街の問題点、課題等を抽出。商店街のコンセプトや目指す方向性、今後取り組む事業の内容を検討した。	○補足調査、プランに基づく各事業を展開 ①商店街まちのステーション事業 →地域住民、及び来街者ニーズの高かった、地域コミュニティの場を整備(ハローようが)。 また商店街の不足業種である鮮魚店を誘致した。(まちなか観光物産館「日舎のごっつお」) ②用賀観光マップの作成 ③国(経産省) 地域商店街活性化法 事業計画認定
	2 三軒茶屋銀座商店街 (事業開始 H21～)		○商店街振興プランの策定 ・地域まちづくりと協働した商店街実現に向けたプランを策定するための検討会を開催。(4回/年) ・アンケート調査等を実施し、商店街の問題点、課題等を抽出。商店街のコンセプトや目指す方向性、今後取り組む事業の内容を検討した。
	3 経堂農大通り商店街 (事業開始 H21～)		○商店街振興プランの策定 ・地域まちづくりと協働した商店街実現に向けたプランを策定するための検討会を開催。(9回/年) ・アンケート調査等を実施し、商店街の問題点、課題等を抽出。商店街のコンセプトや目指す方向性、今後取り組む事業の内容を検討した。
	4 尾山台(4商店街合同) (事業開始 H21～)		○商店街振興プランの策定 ・地域まちづくりと協働した商店街実現に向けたプランを策定するための検討会を開催。(7回/年) ・アンケート調査等を実施し、商店街の問題点、課題等を抽出。商店街のコンセプトや目指す方向性、今後取り組む事業の内容を検討した。

づくりと協働して、長期的な視点で振興を図ろうとする商店街を支援する。

支援を行う。

22年度	23年度以降
○補足調査、プランに基づく各事業を展開 ①商店街まちのステーション事業 → 平成21年度に開設したまちのステーションの運営及びイベントを連携させながら、地域の賑わいと地域住民、及び来街者ニーズに応える事業を行った。 ・組合員を中心とした、地域の健康づくり教室 ・陸前高田や他の地域と連携した料理教室 ・高齢者のパソコン・携帯教室 ・用賀の歴史を学びまち歩きを行う用賀歴史倶楽部 ・地域住民からの発信イベントや手づくりワークショップ ・情報発信(インターネットラジオや地域情報誌等)を学生と協働 ②商店街での組合員向け研修を6回実施、消費者ニーズの把握調査を実施し、個店の魅力アップへつなげる事業を行った。 ③共同販促事業として、商店街フリーマガジン「Yogas(ヨーガス)」(2回発行)や商店街チラシの作成、キャラクター「よっきー」を製作し商店街全体及び、個店の販促活動を充実させた。	○商店街振興プランに基づく各事業を展開 公社重点支援 終了
○補足調査、プランに基づく各事業を展開 ①優先事業の検討と取り組む事業の詳細検討 → 歩行者天国の活用、個店間・お客様とのネットワークづくり、地域との協働の仕組み。 ②商店街と地域が一体となった街づくり → こども110番への取り組み、エコ及び環境推進活動につながるプレミアム商品券の利用で金額の1%を世田谷区みどりのトラスト基金に寄付。 ③地域が参加する仕組み → 昭和女子大と連携して、三茶フェスティバルの竹灯籠を飾る企画を展開。イベント期間中には個店でも竹灯籠を飾り、イベントを盛り上げた。 ④個店間とお客様とのネットワーク → お客様とお店のふれあい作りで産地体験学校を実施。また、商店街の取り組み(安全・安心活動やエコ活動、みどり基金の取り組み等)を機会を捉えPRした。	○補足調査、プランに基づく各事業を展開 年度終了時に事業報告 公社重点支援 ～23年度
○補足調査、プランに基づく各事業を展開 ①東京農業大学との連携 → 農大事務局・学生部・教授との連携を深め、農大一店逸品を推進する基礎ができた。 ・農大へ訪問し意見交換(2回) ・農大とのコラボ商品調整し、協力会員を募集。等農大収穫祭便乗セールにて、エミューコロケ・やむいもパンを農大コラボ商品として販売し完売した。 ・農大学生とのグループインタビューを実施し、事業の検討資料とした。 ②農大と連携を継続させるため、農大収穫祭便乗セールの農大コラボ商品等事業を検証し、23年度以降の事業を検討した。	○補足調査、プランに基づく各事業を展開 年度終了時に事業報告 公社重点支援 ～23年度
○補足調査、プランに基づく各事業を展開 ①優先事業の検討と取り組む事業の詳細検討 → 尾山台らしさを感じられる楽しみや雰囲気づくり、安全・安心、快適な環境づくり ・安全・安心パトロールの合同実施(4商店街全体への連携につなげる) ・イベントの合同開催に向けた検討 ・歩行空間の改善・確保、4商店街共通ルールと周知の検討 ②安全・安心パトロールの実施 → すでに実施されているパトロールを4商店街全体への連携につなげるため、時間帯や体制を考慮しながら実施。	○補足調査、プランに基づく各事業を展開 年度終了時に事業報告 公社重点支援 22・23年度